

仲間と作品の魅力を語り合う生徒の育成
～2年生「走れメロス」の実践を通して～

みよし市立南中学校 国語部
実践者 柴田 美佐里
発表者 松本 賢治

1 主題設定の理由

本学級の生徒は、友達と語り合うことに楽しさを感じている生徒が多くいる。学級担任からも授業後に、作品について語り合う姿があると聞いている。短歌の創作では優れた作品を作ろうと授業前から考えている様子が見られた。言葉に着目して読むことに楽しさを感じたり、言葉選びを楽しんで作品を作ったりしている。発言でも文章中の言葉を根拠として意見を述べている。グループ活動やペア学習では、分からないことを教え合える雰囲気があり、周りの人に聞いて理解を深めようとする姿勢が見られる。

「盆土産」では、物語を主人公の視点と父の視点で考え、物語を複数の視点で考える学習を行った。この学習を、多様な読みを引き出すことのできる「走れメロス」に生かして読むことで、深く作品を読み味わう楽しさを感じられるようにしたい。

2 目指す生徒像

- ・言葉に着目して作品を読むことで、作品の魅力に気付く生徒。
- ・仲間と作品を読み味わうおもしろさを感じられる生徒。

3 研究仮説と手だて

仮説

- ・読む視点を決めて、キーワードをもとに作品を考えることで、新たな作品の魅力に気付くことができるだろう。

手だて

- ・着目する観点に分かれて、グループごとに作品を読む。
- ・生徒の意見をもとに、全体で考えるキーワードを決める。

4 研究の計画

(1) 抽出生徒

<生徒 A>

根拠をもって自分の意見を述べることができる。的確に文章の意味を捉えて考えることができる。独自の視点があり、他の生徒が気付かないこと

にも気付くことができる。話し合いの中心となり、他の生徒に気付きを与えるような発言を期待する。

<生徒 B>

学級のムードメーカー的な存在。自分の気付きを提案し、仲間と話し合うことに楽しさを感じている。文章の理解は少しずれることがあり、適切とは言い難い部分もある。自分の考えを提案し、他の生徒が考えるきっかけになることを期待する。

(2) 単元計画 (9 時間)

| 時間 | 学習活動 |
|----|---|
| 1 | 全文を通読する。(朗読 CD) 初読の感想を書く。(Forms で回答) |
| 2 | 作品の設定と構成を確認する。 |
| 3 | 担当を決めて読み取りを進める。(ムーブノート) |
| 4 | ・場面の展開に即して人物像を読み取る。 メロス・王・セリヌンティウス ・表現の効果を考えて読む。 |
| 5 | グループで作品の魅力を考える。(ムーブノート・オクリンク) |
| 6 | 各グループの意見を全体で共有する。(オクリンク) |
| 7 | キーワードをもとに話し合う。 |
| 8 | 作品の魅力をまとめる。(オクリンク) ・登場人物の設定・人物像・場面の展開・表現のしかた・描写・文体・テーマ |
| 9 | 作品の魅力を語り合う。 振り返り。(Forms で回答) |

5 実践と考察

(1) 初読の感想を書く。

初読の感想では、「どの登場人物に魅力を感じているか」とその理由を聞いた。

【どの人物に魅力を感じているか】

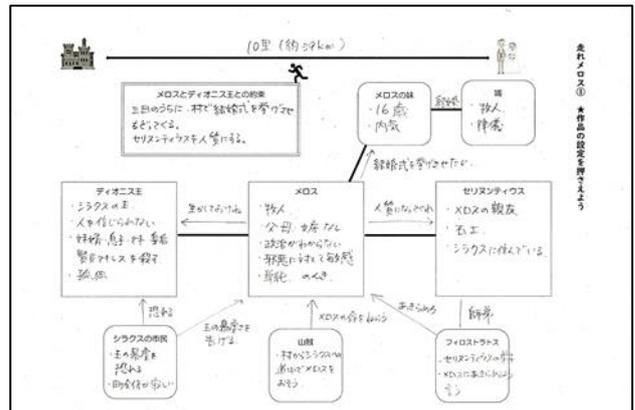
| |
|---|
| メロス 正義感と一度折れても立ち直る姿が魅力的だと感じたから。(生徒 A) |
| フィロストラトス 人を信じることを証明するために走るメロスに立ちはだかる最後の試練のような人だから。(生徒 B) |

(2)担当を決めて読み取りを進める。

全体で作品の設定と構成を確認した後、読み取りを進めるときの手助けとするため、文学的文章を読むためのポイントを振り返った(教科書 P260、261)。これまでに学習してきたことを振り返り、「走れメロス」を読む視点を示した。人物像(メロス・王・セリヌンティウス)に着目するグループと表現に着目するグループに分けた。グループごとに割り振られたムーブノートの「広場」に、それぞれが気付いたことをカードに書き込んで提出した。

視点を示したことで、表現を考えるグループは、どんなことに着目すればよいのかが分かり、情景描写や比喻表現を中心に特徴を見つけることができた。色が表すものを考えたり、情景が表すものを考えたりしていた。タブレットでは、自分の気付いたことを自由に書けるので、全員が1枚は広場にカードを提出することができた。文章を書くことが苦手な生徒もカードへの入力には抵抗感がなく取り組めたようだった。タブレットを用いたことで普段は発言しない生徒の意見も取り入れて考えることができた。

生徒 A は「表現」に着目して作品を読んだ。語り手の視点の変化や文の長さが表すことに着目して読み、他の生徒が気付かなかったことを挙げていた。生徒 B は「王」の人物像が分かるところを探して読んだ。2場面の王の残虐な人間像が表れている部分を二つ挙げた。王の残虐さは読み取れた。しかし、「逃げた小鳥が帰ってくるというのか」という部分から、小鳥好きと考えているところは、比喻表現の理解が不十分であることが分かる。少しずつれているものでも受け入れてもらえる雰囲気学級にあり、カードを提出しやすくしていた。



資料1 走れメロスの設定を確認したワークシート



写真1 タブレットで自分の考えを記入する様子

表現について分かることを書き出そう

場面 202 ページ 10 行目

本文

3日が経つのは、明る日の黎明のころである。3メロスは跳ね起き、11例第三、通過したか、いや、まだまだ大丈夫、これからすぐに出発すれば、約束の刻限までには十分間に合う。1今日はぜひとも、あの王に、人の信実の存するところを見せてやろう。11そうして笑ってはりつけの台に上ってやる。3メロスは、ゆうゆうと身したくを始めた。3雨も、幾分か降りになっている様子である。

分かること

常に物語の中で三人称(3)と一人称(1)が混ざっているため、客観的に且つメロス視点から物語に没入でき、臨場感やスピード感を感じられる

資料2 生徒 A の「表現」に着目した記述

「王」について本文から分かることを書き出そう

2場面 198ページ 12行目

本文

疑うのが政党の心構えなのだと、わしに教えてくれたのは、おまえたちだ。

分かること

人のことを信頼しておらず、残虐で恐ろしい人間

「王」について本文から分かることを書き出そう

場面 ページ 行目

本文

逃した小鳥が帰ってくるというのか

分かること

王は小鳥好き
→人より小鳥の方が信用できる

資料3 生徒Bの「王」の人物像に着目した記述

(3) グループで考える。

広場に提出されたカードをもとに、どんなことが分かるか、人物像がどのように変化したか、表現の特徴としてどんなことがあるかを話し合った。ムーブノートの広場でカードを動かしたり、書き込んだりした。

人物像を担当したグループには、初めと終わりでどのように変化したのか、きっかけはどんなことだったか、場面ごとに考えるよう指示した。表現を担当したグループには、比喻・情景描写・言葉・構成・人物像の観点で考えるよう指示した。カードの枚数が少ないグループは、提出された部分以外に分かるところはないかを探しながら進めていたので、多くを考えることはできなかった。



資料4 「表現」グループがカードを
観点ごとに分類したもの

しかし、提出されたカードから分かることをどのグループも話し合う様子は見られた。一斉での授業ではいつも関心がなさそうにしている生徒も話し合いに加わっており、全員が参加できるようにするためには、ムーブノートは役立った。

生徒Aのグループは、細かいところにも気付ける生徒が多かったので、生徒Aが挙げた語り手の変化が読者を作品に引き込む工夫になっていることや、情景描写を使って登場人物の心情が表されていること、大げさな比喻表現が物語を壮大にしていることなどを考えることができた。

生徒Bのグループは、初めはムーブノートの広場に書き込みをたくさんしていた。書き込みすぎてよく分からなくなり、書き込みを消して考え直したりしていた。話し合ったことをオクリンクにまとめる担当の生徒に気付いたことをどんどん言い、出た意見をすべてオクリンクに書き込んでいた。

(4) 各グループの意見を全体で共有し、キーワードをもとに話し合う。

グループで話し合ったことをオクリンクでまとめたものを各代表が提示しながら、発表した。

生徒 A は、語り手の視点が変化していくことで、「没入感」があり、作品に引き込まれていくことを発表した。聞いている生徒はうなずき、納得の声が漏れた。生徒 B は、王は「思春期」とであると発表した。「思春期」という言葉にクラスからはどよめきが起こり、「王はおじさんだよ」「思春期はちがうんじゃない」という

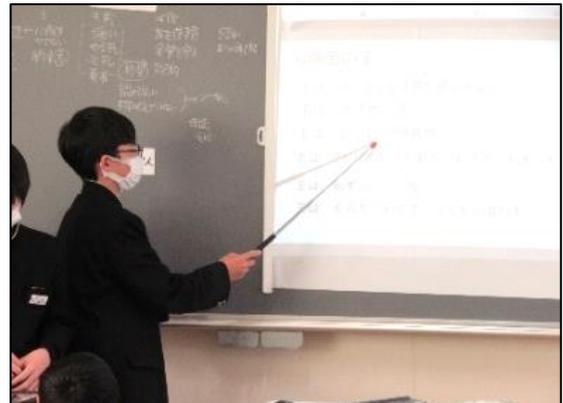


写真2 グループの代表が発表する様子

声が上がられた。発表の中から、読者を引きこむ表現力が考えられる「没入感」と、生徒の反応が大きかった「思春期」をキーワードとして取り上げ、全員で考えることにした。

「没入感」の話し合いでは、いろいろな表現方法を取り上げて見ていくことで、太宰治が読者を作品に引き込むために多くの工夫をしていることに気付いた生徒が多かった。太宰治の表現力が豊かなことから、「走れメロス」という作品が長く読まれ続けているのだと多くの生徒が考えた。生徒 A が取り上げた「没入感」というキーワードをもとに、他の生徒も太宰治が読者を引き込む工夫を考え、読みを深めることができたと考えられる。

「没入感」のキーワードの話し合いで出た意見

- ・語り手が三人称から二人称、一人称へと変化することで読者がメロスの気持ちに入り込めるようにしている。
- ・一文が短くスピード感があり、印象に残る。リズム感がある。
- ・情景描写でメロスの心情を表している。場面のイメージがしやすく臨場感がある。
- ・比喩を使うことで分かりやすく、想像がふくらむ。
- ・「邪知暴虐」など言いたくなるような印象的な言葉を使っている。使っている言葉がかっこいい。

「思春期」の話し合いでは、中学生は思春期の真っ只中であり、今の自分たちだと理解した上で、思春期は悩みが多く、一人で抱え込んでしまうことがある部分が、王が悩んでいる部分と重なることから、王を思春期と考えた。では、思春期真っ只中の中学生のみんなと王は同じなのかを問うと、それは違うと答えた。王と自分たちの似ている部分や違う部分を考えることで、「王

は残忍で酷い人である」という初めの印象から、「自分たちと似たところもある」という印象に変わり、身近に感じられるようになった。生徒 B が取り上げた「思春期」というキーワードをもとに、他の生徒も人物像の捉え方が深まったと考えられる。

「思春期」のキーワードの話し合いで出た意見

- ・ 思春期は反抗期で心が不安定な時期。
- ・ 悩んでいることがあっても素直に相談できない。どうしていいのかわからない。
- ・ 孤独から被害妄想のような考えになっていく。
- ・ 王は自分たちと年齢も離れているし、生きている環境も違うけれど、自分たちと似ている部分がある。
- ・ 自分たちは王ほど酷いことはしないので、自分たちとは違うが、似たようなところもあり、身近に感じられる。

(5) 作品の魅力をまとめ、仲間と語り合う。

学習のまとめとして自分の考える「走れメロス」の作品の魅力をオクリンクを使いスライドショーにまとめた。それをもとにグループで聞き合った。それぞれの感じた魅力の発表の後に質問をするようにした。発表の後の質問はあまり出なかったようで、司会を担当した生徒が同じグループの生徒から意見を引き出そうと四苦八苦しなから取り組んでいる様子が見られた。自分のグループだけでは、話が進まなくなり、隣のグループに質問し、意見を出してもらっているグループもあった。意見の広げ方や話し合いの進め方の手立てが足りなかった。魅力に感じた部分の違う人でグループを組んだので、グループでの交流を終えての感想では、「自分と違う見方をしている人もいて、いろいろな見方があると思った」という感想が多かった。いろいろな読み方をするおもしろさは感じられたようだった。



写真3 作品の魅力を仲間と語り合う様子

徒 A と B 以外の生徒も様々な作品の捉え方を知り、作品の新たな魅力に気付くことができた。

(2) 課題

広い範囲を短い時間で読み、カードに書き込むことは細かい部分まで見つけるには時間が足りなかった。ムーブノートの使い方に慣れておらず、使い方を理解するまでに時間がかかった。「広場」の共有が難しかった。

生徒 A は今回の学習で考えを深めることができていたが、生徒 B はその変容が見られなかった。B の考えの深まりをねらうためにはどのような手だてが有効なのかを、今後考えていきたい。